

平成21年度東京大学大学院理学系研究科
物理学専攻修士課程入学試験問題

数 学

平成20年8月25日（月） 10時00分～11時00分

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはならない。
2. 解答には、必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用すること。
3. 問題は全部で2問ある。2問すべてに解答せよ。
4. 答案用紙は各問につき1枚、合計2枚配布されていることを確かめること。
5. 各答案用紙の所定欄に科目名(数学)、受験番号、氏名、問題番号を記入すること。
6. 解答は、各問ごとに別々の答案用紙を使用すること。
7. 答案用紙は点線で切り取られるので、裏面も使用する場合には、点線より上部を使用しないこと。
8. 答案用紙には解答に関係ない文字、記号、符号などを記入してはならない。
9. 解答できない場合でも、答案用紙に科目名(数学)、受験番号、氏名、問題番号を記入して提出すること。
10. 答案用紙を計算用紙として使用してはならない。計算用紙は別に配付する。

第1問

1. 実変数 θ に依存する 2 行 2 列の実対称行列

$$A = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} \cos \theta + 3 \sin \theta & -\sqrt{3} \cos \theta + \sqrt{3} \sin \theta \\ -\sqrt{3} \cos \theta + \sqrt{3} \sin \theta & 3 \cos \theta + \sin \theta \end{pmatrix}$$

に対し、次の問に答えよ。なお θ の範囲は $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ であるとする。

(i) 行列 A の 2 つの固有値を求めよ。

(ii) A の対角成分の和 $\text{Tr } A$ の 3 乗 $(\text{Tr } A)^3$ と A^3 の対角成分の和 $\text{Tr}(A^3)$ の差を θ の関数として

$$f(\theta) = (\text{Tr } A)^3 - \text{Tr}(A^3)$$

と置くと、 $f(\theta)$ の最大値と最小値を求めよ。

(iii) I を単位行列とすると、 A の多項式から作られる行列

$$B = A^4 - A^2 + A + (\cos^2 \theta \sin^2 \theta - 1)I$$

が逆行列を持たないような θ の値を求めよ。

(iv) B が逆行列 B^{-1} を持つとき、 B^{-1} を行列 A の 1 次式、すなわち係数 $a_1(\theta)$, $a_0(\theta)$ を用いて $B^{-1} = a_1(\theta)A + a_0(\theta)I$ の形に表せ。

2. N 行 N 列の実対称行列 X の全ての固有値 λ_i ($i = 1, \dots, N$) が非負 $\lambda_i \geq 0$ であるとする。

(i) 任意の自然数 n に対して不等式

$$(\text{Tr } X)^n \geq \text{Tr}(X^n)$$

が成り立つことを証明せよ。

(ii) 上の不等式で等号 $(\text{Tr } X)^n = \text{Tr}(X^n)$ が成立するのは、固有値 λ_i がどのような場合に限られるか。ただし $n \geq 2$ とする。

第2問

実変数 t の関数 $f_1(t), f_2(t)$ が次の連立1階常微分方程式を満たす。

$$i \frac{d}{dt} \begin{pmatrix} f_1(t) \\ f_2(t) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a(t) & b(t) \\ b(t) & c(t) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} f_1(t) \\ f_2(t) \end{pmatrix} \quad (1)$$

ただし $a(t), b(t), c(t)$ は t の実関数であり、 $i = \sqrt{-1}$ とする。

- $|f_1(t)|^2 + |f_2(t)|^2$ が t に依存しないことを示せ。
- $f_1(t) = e^{-i \int_0^t a(\tau) d\tau} \tilde{f}_1(t)$, $f_2(t) = e^{-i \int_0^t c(\tau) d\tau} \tilde{f}_2(t)$ によって $\tilde{f}_1(t)$ と $\tilde{f}_2(t)$ を定義すると、これらが

$$i \frac{d}{dt} \begin{pmatrix} \tilde{f}_1(t) \\ \tilde{f}_2(t) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & \tilde{b}(t) \\ \tilde{b}(t)^* & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \tilde{f}_1(t) \\ \tilde{f}_2(t) \end{pmatrix}$$

という形の常微分方程式を満たすことを示せ。またこのときの $\tilde{b}(t)$ の表式を求めよ。

ただし $\tilde{b}(t)^*$ は $\tilde{b}(t)$ の複素共役を表す。

- $a(t) = c(t) = 0$ であり、 $b(t)$ が定数 b_0 であるとする。式 (1) の解 $f_1(t)$ を、 b_0 および $f_1(0), f_2(0)$ を用いて表せ。
- $a(t) = c(t) = 0$ であり、 $b(t)$ は $t \rightarrow -\infty$ で十分はやく減衰する関数であるとする。このとき、式 (1) の解 $f_1(t)$ を、 $b(t)$ および $f_1(-\infty), f_2(-\infty)$ を用いて表せ。ただし $f_1(-\infty) = \lim_{t \rightarrow -\infty} f_1(t)$ などである。
- 設問4で、 $b(t)$ が正の定数 β, ω, t_0 を用いて

$$b(t) = \frac{\beta \cos \omega t}{t^2 + t_0^2}$$

で与えられる場合を考える。 $f_1(-\infty) = 1, f_2(-\infty) = 0$ のとき、 $|f_1(+\infty)|^2, |f_2(+\infty)|^2$ の値を求めよ。

平成 21 年度数学解答例

渡辺 悠樹

2009 年 6 月 9 日

第 1 問

1. (i) $\det(A - xI) = x^2 + (\cos \theta + \sin \theta)x + \cos \theta \sin \theta = 0 \quad \therefore x = \cos \theta, \sin \theta$

(ii) 実対称行列はエルミート行列の特殊場合であり，ユニタリ行列を用いて対角化できるので，

$$A = U \begin{pmatrix} \cos \theta & 0 \\ 0 & \sin \theta \end{pmatrix} U^\dagger$$

とおく．このとき，

$$A^3 = U \begin{pmatrix} \cos^3 \theta & 0 \\ 0 & \sin^3 \theta \end{pmatrix} U^\dagger$$

であるが，trace はユニタリ不変なので，

$$f(\theta) = (\cos \theta + \sin \theta)^3 - (\cos^3 \theta + \sin^3 \theta) = 3\sqrt{2}\left(t^3 - \frac{t}{2}\right)$$

ここに， $t = \frac{\cos \theta + \sin \theta}{\sqrt{2}} = \sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right)$ とおいた． $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ であるから $\frac{1}{\sqrt{2}} \leq t \leq 1$ である．区間 $[\frac{1}{\sqrt{2}}, 1]$

における 3 次関数 $3\sqrt{2}(t^3 - \frac{t}{2})$ の最大最小値問題と考えれば，直ちに

$$\text{最大値 } \frac{3\sqrt{2}}{2} \quad (t = 1 \Leftrightarrow \theta = \frac{\pi}{4} \text{ のとき}), \quad \text{最小値 } 0 \quad (t = \frac{1}{\sqrt{2}} \Leftrightarrow \theta = 0, \frac{\pi}{2} \text{ のとき})$$

を得る．

(iii)

$$\begin{aligned} B &= U \begin{pmatrix} \cos^4 \theta - \cos^2 \theta + \cos \theta + (\cos^2 \theta \sin^2 \theta - 1) & 0 \\ 0 & \sin^4 \theta - \sin^2 \theta + \sin \theta + (\cos^2 \theta \sin^2 \theta - 1) \end{pmatrix} U^\dagger \\ &= U \begin{pmatrix} \cos \theta - 1 & 0 \\ 0 & \sin \theta - 1 \end{pmatrix} U^\dagger \end{aligned}$$

したがって $\det B = (\cos \theta - 1)(\sin \theta - 1)$ なので， $\theta = 0, \frac{\pi}{2}$

(iv) $\theta \neq 0, \frac{\pi}{2}$ のとき，

$$B^{-1} = U \begin{pmatrix} \frac{1}{\cos \theta - 1} & 0 \\ 0 & \frac{1}{\sin \theta - 1} \end{pmatrix} U^\dagger = U \begin{pmatrix} a_1(\theta) \cos \theta + a_0(\theta) & 0 \\ 0 & a_1(\theta) \sin \theta + a_0(\theta) \end{pmatrix} U^\dagger$$

だから，両辺を比べて連立方程式を作ることにより $a_1(\theta), a_0(\theta)$ が求まる．結局，

$$B^{-1} = \frac{-1}{(\cos \theta - 1)(\sin \theta - 1)} A + \frac{\cos \theta + \sin \theta - 1}{(\cos \theta - 1)(\sin \theta - 1)} I$$

と表すことができる．($B = A - I$ を利用して，もっとうまく求める方法があるのかもしれませんが．)

2. (i) 前問と同様に、実対称行列はユニタリ行列を用いて対角化可能であり、かつ trace はユニタリ不変であるため、

$$\operatorname{Tr} X = \sum_i \lambda_i, \quad \operatorname{Tr}(X^n) = \sum_i \lambda_i^n$$

となるから、

$$g(\lambda) = \left(\sum_i \lambda_i \right)^n - \sum_i \lambda_i^n$$

とおくと、

$$\frac{\partial g}{\partial \lambda_j}(\lambda) = n \left(\sum_i \lambda_i \right)^{n-1} - n \lambda_j^{n-1} \geq 0$$

かつ $g(\lambda = 0) = 0$ より、題意は示された。(Cauchy-Schwarz の不等式みたいな定理があるんでしょうか？
知ってる人がいたら教えてください。)

(ii) $n \geq 2$ のとき前問の証明から、 λ_j が 0 でない有限の値で $g(\lambda) = 0$ となるためには、まず $\frac{\partial g}{\partial \lambda_j}(\lambda) = 0$ となるために λ_j 以外の固有値は全てゼロであることが必要である。このとき明らかに $g(\lambda) = (\lambda_j)^n - \lambda_j^n = 0$ であるから、これで十分である。したがって、

$$\lambda_i = c \delta_{ij}, \quad (c \geq 0)$$

が求める条件である。

第2問

1.

$$\mathbf{f}(t) = \begin{pmatrix} f_1(t) \\ f_2(t) \end{pmatrix}, \quad A(t) = \begin{pmatrix} a(t) & b(t) \\ b(t) & c(t) \end{pmatrix}$$

などとおくと,

$$i\dot{\mathbf{f}} = A\mathbf{f}, \quad -i\dot{\mathbf{f}}^\dagger = \mathbf{f}^\dagger A^\dagger, \quad i\frac{d}{dt}\mathbf{f}^\dagger\mathbf{f} = \dots = \mathbf{f}^\dagger(A - A^\dagger)\mathbf{f} = 0$$

2.

$$U = \begin{pmatrix} e^{i\int_0^t a(\tau)d\tau} & 0 \\ 0 & e^{i\int_0^t c(\tau)d\tau} \end{pmatrix}, \quad \tilde{\mathbf{f}} = U\mathbf{f}$$

とおくと,

$$i\dot{\tilde{\mathbf{f}}} = U(i\dot{\mathbf{f}}) + i\dot{U}\mathbf{f} = UA\mathbf{f} - U \begin{pmatrix} a & 0 \\ 0 & c \end{pmatrix} \mathbf{f} = U \begin{pmatrix} 0 & b \\ b & 0 \end{pmatrix} U^\dagger \tilde{\mathbf{f}} = \begin{pmatrix} 0 & b(t)e^{i\int_0^t (a(\tau)-c(\tau))d\tau} \\ b(t)e^{-i\int_0^t (a(\tau)-c(\tau))d\tau} & 0 \end{pmatrix} \tilde{\mathbf{f}}$$

3.

$$\dot{\tilde{\mathbf{f}}} = -ib_0 \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \tilde{\mathbf{f}} \Leftrightarrow \mathbf{f}(t) = \exp\left(-ib_0 \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} t\right) \mathbf{f}(0) = \begin{pmatrix} \cos(b_0 t) & -i \sin(b_0 t) \\ -i \sin(b_0 t) & \cos(b_0 t) \end{pmatrix} \mathbf{f}(0)$$

4.

$$\mathbf{f}(t) = \exp\left(-i \int_{-\infty}^t b(\tau)d\tau \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}\right) \mathbf{f}(-\infty) = \begin{pmatrix} \cos\left(\int_{-\infty}^t b(\tau)d\tau\right) & -i \sin\left(\int_{-\infty}^t b(\tau)d\tau\right) \\ -i \sin\left(\int_{-\infty}^t b(\tau)d\tau\right) & \cos\left(\int_{-\infty}^t b(\tau)d\tau\right) \end{pmatrix} \mathbf{f}(-\infty)$$

5.

$$\int_{-\infty}^{\infty} b(\tau)d\tau = \omega\beta \int_{-\infty}^{\infty} \frac{\cos z}{z^2 + z_0^2} dz = \omega\beta \frac{\pi}{z_0 e^{z_0}} = \frac{\pi\beta}{t_0 e^{\omega t_0}}$$

$$\left(\because \int_{-\infty}^{\infty} \frac{\cos z}{z^2 + z_0^2} dz = \int_{-\infty}^{\infty} \frac{e^{iz}}{z^2 + z_0^2} dz = \int_C \frac{e^{iz}}{(z - iz_0)(z + iz_0)} dz = 2\pi i \frac{e^{-z_0}}{(iz_0 + iz_0)} = \frac{\pi}{z_0 e^{z_0}}\right)$$

途中 $z_0 = \omega t_0$ とおいた。なお, C は「実軸 + 上半円」ととった。小問4の結果と合わせて, 直ちに

$$|f_1(+\infty)|^2 = \cos^2\left(\frac{\pi\beta}{t_0 e^{\omega t_0}}\right), \quad |f_2(+\infty)|^2 = \sin^2\left(\frac{\pi\beta}{t_0 e^{\omega t_0}}\right)$$

を得る。